

	特定非営利活動法人 日本防災士会高知 正会員 48 名 賛助会員 14 名 賛助法人会員 1 団体 (令和 5 年 3 月)	〒780-0914 高知市宝町 19-20 TEL/FAX 088-875-9773 http://bousaishikochi.watson.jp/	
--	---	---	---

「防年会」開催報告



心肺蘇生法に取り組む
参加者の面々



お味に興味津々の
防災食♡

コロナ禍により、今年度も開催と中止を模索してきたスキルアップ研修ですが、令和4年12月3日には「防年会」と題し、メニュー選択は自由、参加退席も自由な研修を開催しました。

午前中は、日本赤十字社高知県支部から外部講師を招き「心肺蘇生法」「胸骨圧迫」「EDの使用法」について学び、被災時の食事・調理法の座学と防災食の試食会を挟んだ後、午後は災害に関わる啓発DVDの視聴、防災グッズづくりを行いました。

一度学んだことも、いざという時に使うためには反復練習と知識のブラッシュアップが欠かせません。コロナ禍がひと段落するであろう次年度は、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

警視庁警備部災害対策課のご紹介

警視庁警備部災害対策課がTwitterをやっています。その中で時々、災害時に役立つ情報がUPされます。その中から、一つピックアップしてご紹介します。興味のある方は他の投稿もチェックしてみてくださいはいかがでしょうか。

(2018年10月17日のツイートより)

「災害時、プルトップ型ではない缶詰を道具が何もない状態で開けるには、どうすればいいでしょうか。それには缶詰のふたのフチを、コンクリートやアスファルトにこすりつけて下さい。缶詰のふたは構造上フチの接合部分が削れると取れるようになっています。女性や子供の方でも簡単にできますよ。」



道具を使わず、缶詰をあける方法



内を描くように缶詰をコンクリートにこすりつけます。



接合部分がとれて中の汁が出てきました。



このようにとれます。ふたを取る際、砂等が中に混入しないよう注意して下さい。

12回目の3.11

今年もまた、我々日本人が忘れてはならない日、3月11日がやってきました。

各地で追悼行事が行われ、メディアでも震災関連の番組が多数放送されました。中でも3月4日・5日に放送された、NHKスペシャル「南海トラフ巨大地震」が巷間の話題となっていました。日本の東部と西部で、巨大地震が時間差で連続する“半割れ”の恐怖を、リアリティ高くドラマ化しており、高知の混乱の様子を身につまされる思いで視聴した方もおられたことでしょう。

12年前、真っ先に救助隊を派遣した親日国トルコにおいても大地震が発生し、東日本大震災を超える5万人以上が犠牲になりました。

震災の記憶の風化が叫ばれ始めていますが、福島県大熊町の帰還困難区域の一部の避難指示が解除されたのは、ほんの7ヶ月前であり、4000人いた町民が現在はずか60人です。復興の道は遙か遠く…12年を経てもいまだに震災は続いているのです。

連絡...お願い...連絡

- ① 昨年12月以来、6名の方が当会に入会されました。短期間にかくも多くの新入会員をお迎えすることができたことは、望外の喜びです！
- ② 現在、防災士会高知の会員のLINEグループには20名が参加されています。LINEは、発災時に繋がりづらい携帯電話よりも便利なツールです。LINEを使ったことがない方が使えるようになることは、それ自体が防災に通ずるものです。お子様やお孫さんに習って、使い方を学んでみては如何でしょうか。
- ③ 2月28日と3月7日、二週に渡ってFM高知の防災の番組に出演しました。内容は以前スキルアップ研修を行った「災害時の法律問題について」です。家の権利証や通帳が津波で流されたらどうすればよいか、ラジオ局の方も興味津々でした。
- ④ 当会の井上隆志理事長が、2月17日放送のNHKラジオ「四国防災ネットワーク」に出演し、災害に対して複数の備えをしておくこと、そして平時からその備えを試しておくことの重要性をお話しました。この日の内容も含め過去の記録はホームページに掲載されていますので、「四国防災ネットワーク」で検索を！